

# 優美さと力強さと

どれほど機械化が進んでも、人の手にしかできない仕事があります。何十年・何百年と続く技術が、日本の文化財建築を支えてきました。その技は「檜皮葺」。丹波市が世界に誇る、伝統の屋根葺き技法です。樹齢80年以上の檜から樹皮を剥ぎ、屋根に1枚1枚丁寧に重ね、優美で力強い曲線を描く。伝統の技術を後世に伝えるために奮闘する職人の姿を追いました。



## 古来から伝わる屋根葺き技法

市の伝統工芸である檜皮葺は、京都の清水寺や長野の善光寺など、主に全国の国宝や重要文化財などに用いられる屋根葺きの技法です。1300年以上の長い歴史があり、特に山南地域で、約200年前から現在に至るまでその技が受け継がれてきました。光沢を帯びたこげ茶色の優美な屋根は、日本の文化財建造物の象徴であり、また湿気の多い日本の風土に合った自然素材の屋根なのです。

## 黒背皮くろせがわの産地・丹波市

丹波地方の山々で採取される檜皮は「黒背皮」と呼ばれ、丈夫でしなやかな性質が、全国各地で重宝されています。また、都のあった京都に

# 檜皮葺



柏原八幡神社 本殿



高座神社 本殿



③



①



竹釘



②



## 檜皮葺 主な作業工程

- ① 檜から皮を剥ぐ
- ② 檜皮をさまざまな寸法に整形する
- ③ 竹釘を使って屋根を葺く

檜皮葺は檜の皮を剥ぐ「原皮師」、屋根を葺く「葺師」、檜皮を屋根にとめるための竹釘を作る「竹釘師」という3つの分野の職人によって作られます。現在、市内で檜皮に携わる職人は約40人。それぞれの工程に、それぞれの職人が匠の技で挑みます。

近い土地柄から、国内を代表する伝承地域として、優れた職人を輩出してきました。  
職人による匠の技で挑む



# 匠の技



株式会社 村上社寺工芸社  
村上英明さん



## 伝統の技で屋根を美しく葺きあげる

重要文化財の屋根を葺く

檜皮ひわだの採取から材料の準備、屋根を葺く作業までを一連で請け負うのが山南町上久下地域で創業した村上社寺工芸社です。14人の職人が年間3〜5カ所の現場で、重要文化財などの補修に当たります。全国各地の現場に向き、数年かけて屋根を仕上げていきます。

昔から変わらない方法で

屋根を葺くのに必要な道具はとてもなく、主に「屋根金」と呼ばれる金槌と、「手斧」と呼ばれるおのを使います。建築当時と同じ方法で、成形された檜皮を屋根の枠組みに沿って丁寧に並べ、口に含んだ「竹釘」を1本ずつ取り出して打ち込みます。屋根の厚みが10cmほどになるので、接着剤などを使わなくても、30〜40年はその屋根を維持することができます。



- 1\_ 並べた檜皮を竹釘でとめる。曲線部分は特に技術を要する
- 2\_ 使う道具は屋根金と手斧
- 3\_ 何層にも積み重ね、雨漏りを防ぐ



見る人に喜んでもらえる屋根を

文化財は、昔の形を忠実に復元することが求められます。そして、曲線の美しさと力強さの両面を備えていることが檜皮葺の特長です。これまで多くの社寺の屋根を葺いてきましたが、どんな社寺でも、下から屋根を眺めたときに「いいなあ」と喜んでもらえるように頑張っています。

### 研修を通して技術を伝える

文化財建築などの屋根工事の技術を保存するために組織された「全国社寺等屋根工事技術保存会」には、全国で230人ほどが加入し、研修などに取り組んでいます。一度伝統が途切れてしまうと、職人の育成には30〜40年もかかります。職人がより継続的・安定的に力を発揮できるようにするために、技術を伝えながら若い人を育て、仕事場を確保することが必要です。

### 地域ぐるみで保存・活用を

重要文化財に指定された建造物は国からの依頼で修復できますが、修復費用がかさむため、未指定の建造物は放置されているのが現状です。古い建物をどのように活用し、保存するのか、地域ぐるみで考えていくことが大切です。



6



5



4

4\_葺き終えたばかりのたつの市の賀茂神社拜殿  
5\_ 桝組みには令和元年度の補修であるとわかるように焼印を押す  
6\_ 滑らかな曲線を描く



## 檜皮葺の伝統技術を守り継ぐ



株式会社 友井社寺  
友井辰哉さん

### 京都・清水寺で実演も

1861年に創業した友井社寺は、市内で一番長い歴史のある屋根工事業者です。檜皮葺のほか、薄い板で葺く柿葺や茅葺なども手がけており、総合的に文化財建築に携わります。職人の数は減ってきていますが、京都の清水寺で実演をするなど、檜皮葺の技術を広める活動にも取り組んでいます。

### 熟練の技で檜皮を整形

檜皮で屋根を葺くためには、採取した原皮を一定の厚み・長さの台形に整える必要があります。複数の檜皮を重ね、檜皮包丁の先でコツコツとたたいて上下の皮を同じ、1枚の形を作ります。一見簡単そうに見えますが、力加減が難しく、熟練の域に達するには時間がかかります。



1

1\_ 複数枚の檜皮を使って、台形に整える  
2\_ 檜皮葺で作られた柏原藩陣屋跡の表御殿玄関



2



# 素材を生かす



## 檜皮採取で文化財建築を支える

### 立木に登って皮を剥ぐ

立木から檜の樹皮を剥ぐ職人を「原皮師」と呼びます。下から木べらでめくり上げながら皮だけを剥ぎ取っていくため、木が枯れてしまうことはありません。「振り縄」という縄を木にかけ、バランスをとりながら、時には20m以上も登って檜皮を採取します。

### 手に伝わる感覚を大切に

檜皮は樹齢80年以上の木で、10年に1回採取することができま  
す。10年後も剥かせてもらいた  
いので、木を傷つけないことを第一  
に考えています。そのため、木が  
成長する5〜7月の採取を避け、  
最大限その木を生かせるような木  
の状態を観察し、木べらから伝わる



株式会社大野檜皮工業  
大野浩二さん

### 感覚を大切に剥いていきます。

### 選定保存技術保持者に認定

平成26年に、文化庁から、檜皮採取では国内唯一の選定保存技術保持者に認定されました。檜皮葺は材料の質が耐久年数に大きく影響します。自然のものを、人の手仕事でどう使いやすくするか、全国に50人ほどいる原皮師の指導も  
行っています。

丹波産の「黒背皮」は、光沢と粘り気があり、耐久性が良い高級品です。しかし、大体の木は80年で伐採されるため、木を残しても  
らうことも大切です。丹波市の職人が日本の文化財建築を支えているという自負を持って、生涯現役を  
続けていきたいです。





有限会社 石塚商店  
石塚直幸さん

### 国内唯一の竹釘製造

屋根工業者が自前で作っていた檜皮葺に使う竹釘を、専門的に作るようになったのが「竹釘師」です。昔は数軒の竹釘商店がありました。が、現在、竹釘を製造している会社は、日本で唯一ここだけです。檜皮葺では、一坪に約3500本の竹釘が必要で、石塚商店では、全国から発注を受けて、さまざまな長さの竹釘を製造しています。

### 焙煎すると木にも刺さる固さに

繊維が細かく強い、竹の皮から2〜3mmを使って竹釘を作ります。水分を含んだままだと折れてしまうので、乾燥させて、最後に大鍋で炒ると、木にも刺さる固さになり、長持ちします。

竹釘の寿命は長く、最大で約60年間傷みません。自分の仕事が長く残るので、立派な建物に使われているのを見ると、身が引き締まる思いです。



### 地域とともに歩む 檜皮葺の未来



### 小学生が檜皮葺を体験

檜皮葺の関係者は、25年ほど前から、地元の上久下小学校の4〜6年生に、檜皮葺についての授業をしています。1年に1回、檜皮の採取・整形・葺きの中から1つの工程を体験してもらうことで、地域の産業に親しみを持ってもらうことがねらいです。また、地域のイベントや、市内外の講演会にも積極的に参加し、檜皮葺を知ってもらおう活動をしています。

### 世界に広がる檜皮の技

来年秋に、檜皮葺などの文化財建造の技術が、ユネスコの無形文化遺産に登録される見通しです。茅葺は外国にもありますが、檜皮葺は日本特有の技術で、今後世界からの注目度も高まっていくことが予想されます。

まずは柏原八幡神社、高座神社、柏原藩陣屋跡など、市内にあるさまざまな文化財を見に来てほしい。日本の伝統建築を支える職人の技が、こんなに身近にあったことに驚かれるでしょう。丹波市の誇る伝統工芸が、今後世界に広がっていくことが期待されます。

☎ 総合政策課（氷上庁舎内） 82  
0916



特集：檜皮葺

特集：檜皮葺

特集：檜皮葺

市政フラッシュ

市政フラッシュ

市政フラッシュ  
市長コラムほか

情報ひろば  
菟さき 轟さん

情報ひろば  
子育て関連情報

情報ひろば  
相談・コラム

図書館  
健康生活

はぴたん  
戸籍のまど

まちとび

ケント市長・オー  
バン市長来丹